

JF日本語教育スタンダードに基づいたパフォーマンス評価と 日本語能力試験の合否判定との関係 —国際交流基金研修参加者を対象とした試行調査—

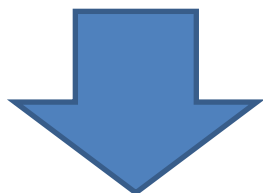
平成24年8月
国際交流基金
日本語事業運営部

JF日本語教育スタンダード(JFS)

- 「相互理解のための日本語」を理念に2010年に開発。
- CEFRに基づいており、これを利用することで日本語能力の熟達度を他の言語と共通の尺度で評価することが可能。
- A1～C2の6段階。

日本語能力試験(JLPT)

- 1984年に開始された世界最大規模の日本語試験。(2011年には全世界で60万人以上が受験)
- 2010年に「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」の測定を主眼とした改定を実施。
- N1～N5の5段階



連関を探るための試行調査の実施

- 調査対象者は、日本語国際センター及び関西国際センターの研修参加者計96名。
- JLPTは、調査用試験を実施し、合否を判定。
(●は合格者、○は不合格者)
- JFSは、調査対象者の「話す」、「書く」両技能のパフォーマンスについて、研修を担当した講師が評価。

調査結果【JFS総合評価とJLPT合否判定との関係】

	A1	A2	B1	B2
N1			● ○○○○ ○○	●●● ○○○○ ○○
N2		○○○	●●●●● ● ○○○○ ○○○	●●
N3		●● ○○○	●●●●● ●	
N4	●●●● ○	●●●●● ●●●●●		
N5	○○○○ ○○○	●●●●● ●●●●● ○○○○○○○		

ポイント

- JLPT N3→N1とJFS評価 A2→B2の間にゆるやかな連関が見られる。
- N4、N5レベルでは学習者特性等の違いにより、JFS評価とJLPT合否判定が逆転している部分が見られる。